

親愛なる、
傷だらけの
ひとたちへ。

浅野忠信
田中麗奈

南沙良

鎌田らい樹

新井美羽

水澤紳吾

池田成志

宮藤官九郎

寺島しのぶ

三島有紀子監督作品

原作 重松清 あの子わらわらに生まれる (1984年)
脚本 荒井晴彦

製作 フロンティア・エンターテインメント

配給 フォックス・トルネオ

監製 大杉ハジメ

助成 文化庁文化芸術振興費補助金
「日本映画 新世代育成支援プログラム」
©2017 Frontiers Entertainment Inc. All Rights Reserved.
osnago-movie.com

幼な子 われらに生まれ

血のつながらない家族、血のつながった他人——つまずき、傷つきながらも幸せを紡いでいく大人たちの、アンサンブルムービー

「やっぱりこのウチ、嫌だ。本当のパパに会わせてよ」



「家族」を築けない、
不器用な大人たちの
愛すべき物語。

娘に言われた時、妻には新しい命が宿っていた。

バツイチ、再婚。一見良きパパを装いながらも、実際は妻の連れ子とうまくいかず、悶々とした日々を過ごすサラリーマン、田中信（浅野忠信）。妻・奈苗（田中麗奈）は、男性に寄り添いながら生きる専業主婦。キャリアウーマンの元妻・友佳（寺島しのぶ）との間にもうけた実の娘と3か月に1度会うことを楽しみにしているとは言えない。

実は、信と奈苗の間には、新しい生命が生まれようとしていた。血のつながらない長女はそのことでより辛辣になり、放った一言——「やっぱりこのウチ、嫌だ。本当のパパに会わせてよ」。今の家族に息苦しさを覚え始める信は、怒りと哀しみを抱えたまま半ば自暴自棄で長女を奈苗の元夫・沢田（宮藤官九郎）と会う決心をするが…。



数々のベストセラーを手がけている直木賞作家・重松清が1996年に発表した傑作小説「幼な子われらに生まれ」。『ヴァイブレイター』『共喰い』などの脚本家・荒井晴彦が重松と映画化の約束を交わし、その脚本が『しあわせのパン』『繕い裁つ人』などで幸せの瞬間を繊細に、丁寧に紡いだ映画で多くの観客の心に感動を届けてきた三島有紀子の手に渡り、ついに映画化が実現した。

台本を重視しながらも、役者同士のその場面その場面での新鮮な感覚を大事にし、ドキュメンタリー手法を使った撮影と、実力派であり個性派であり、日本を代表する役者陣が見事にぶつかり合い、観る者さえも家族の一員であるかのようなリアリティーで物語に引き込んでいく。血のつながらない家族、血のつながった他人がつかずき、傷つきながらも幸せを紡いでいく、アンサンブルムービー。



原作を書いたのは21年前でした。でも、映画は「いま」の物語になっていました。

それが原作者としてなによりうれしい。最高の勲章です。

重松 清（原作者）

浅野忠信 田中麗奈 南沙良 鎌田いづ 新井美羽 水澤紳吾 池田成志 宮藤官九郎 寺島しのぶ

監督三島有紀子（「しあわせのパン」「繕い裁つ人」） 原作重松清「幼な子われらに生まれ」（21巻巻末） 脚本荒井晴彦

音楽田中祐人 撮影大塚亮 照明宗賢次郎 美術井上心平 録音浦田和治 編集加藤ひとみ 衣裳馬場恵子 ヘアメイク倉田明美 記録吉田久美子 助監督工藤将亮

ラインプロデューサー大日方敦史 音楽プロデューサー佐々木次彦 プロデューサー森重見江守敏

製作梅川治男・藤本博・小西啓介・小林栄太郎・三宅容介・山本正典・安達政孝（スチューディオスリー・巖本金属・ファントム・フィルム・テンカラット・ポニーキャニオン・グランマール・サイバーエックス）

製作プロダクション：スチューディオスリー 配給ファントム・フィルム 協賛：大和ハウス工業 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（日本映画／5.1ch／カラー／127分） ©2016「幼な子われらに生まれ」製作委員会 osanago-movie.com

8/26(土)ロードショー!